

平成27年度第3回北杜市図書館協議会会議録

- (1) 会議名：平成27年度第3回北杜市図書館協議会
- (2) 開催日時：平成27年12月9日（水）午後1時30分～午後3時20分
- (3) 開催場所：北杜市金田一春彦記念図書館 SVホール
- (4) 出席者： 協議委員 柴山 裕子／小澤 一／手塚 正子／竹田 和美
齊木 久壽
事務局 三井図書館長／長谷川 誠・小野 まどか
相吉 悠（総務担当）／長屋 恵（すたま森の図書館）／
鈴木 規（ライブラリーはくしゅう）
学校図書館司書 浅川希久子（須玉中学校）
- (5) 議題： (1) 平成28年度新規事業について
(2) 平成27年度図書館利用者懇談会について
(3) その他

報告： (1) ボランティア情報交換会について
(2) 各図書館の近況報告について
(3) その他
- (6) 公開・非公開の別：公開
- (7) 該当なし
- (8) 傍聴人の数：0人
- (9) 審議内容

議 題

1) 平成28年度新規事業について

*事務局よりアーカイブデジタル化事業について概要を説明

- ・アーカイブデジタル化事業については、9月に図書館振興財団から1,400万円の助成金が採択となり、12月議会においてに補正予算として予算に組み込まれ今年度から29年度までの3年計画で事業を進めていく。今年度については、紙資料・写真資料についてデジタル化を作業に入る前の資料の整理作業を1月から3月まで行っていく予定である。28年度については、資料のデジタル化作業とホームページで公開するシステムの構築作業を行う。また、夏には一部の資料を先行公開し、これに伴い小規模の講演会を開催し29年度の全面公開に向けて周知を図っていく予定である。そして29年度にはホームページでの

全面公開と、公開記念シンポジウムを行う予定である。

委員：8月にプレ公開記念の講演会を予定しているとのことだが、この時期にことばの学校も行っていると思うが、この事業との関係はどうなっているか。

事務局：28年度については小規模での講演会を考慮しており、今のところことばの学校とタイアップなどは考えていない。29年度については2日間の開催を予定しており、1日目は研究者の方向けのシンポジウムを行い、デジタル化された資料の価値などを語ってもらおうと思っているが、2日目には一般の方向けに方言や日本語の魅力をお伝えできる内容にしていきたいと考えており、これはことばの学校の趣旨と重なる部分なので、2日目についてはことばの学校と共同開催できないかということで、ことばの学校の実行委員の方と検討をしている。

委員：講師の方の目処はあるのか。

事務局：金田一真澄名誉館長にも相談しており、29年度については東大の教授で金田一春彦先生、平山先生とも親交が深く、日本語学会の重鎮といわれている上野善道先生に基調講演をしていただけないかということで、真澄先生に打診をしていただいているところである。28年度についてはまだ目処はついていない現状である。

委員：28年度の講演会についてはどれくらいの規模での開催を考慮しているか。

事務局：28年度については100人くらいの規模で考えている。29年度については400人規模の市内のホールで開催を検討している。

*事務局より「本の杜への招待状事業」について概要を説明

- ・21年度から26年度までの年代別の図書館の利用人数をみると、特に0～6歳までの年代が最も貸出者数が減少してしまっている。人口構成的にそもそも子どもが減少していることはもちろんあるが、それを考慮しても大きく減少している。また親の世代と考えられる20代、30代についても他の世代と比べても減少率が高い。親子での利用について減ってきている現状があり、小さい子どもの中に図書館を親子で利用するきっかけを作っていきたい。
- ・「本の杜への招待状事業」は、親子での図書館利用の促進と、親子での読書活動の支援を目的とした新規事業である。
- ・事業内容は次のとおりである。
 - ①満2歳の子ども並びに保護者に対し、2歳児検診の会場にて図書館で行われているおはなし会への招待状を発行する。
 - ②実際に図書館で行われているおはなし会に参加してもらい、絵本や手遊びの効果を体験してもらう。
 - ③子どもが興味を持った対象本を選んでもらい配布し、自宅での読み聞かせ

を通じて図書館利用につなげていく。

- ・招待状は図書館への案内と本の引換券の入ったものを予定しており、2歳児検診会場で手渡す。検診欠席者については後日郵送する。
- ・各図書館で行われている乳幼児向けのおはなし会に参加したあと、引換券と交換で本の配布を行うことを原則とするが、乳幼児向けのおはなし会に参加できない場合は、小学生向けのお話し会への参加でも引き換えできることとする。またどうしてもおはなし会に参加できない場合は、職員が図書館の案内、読み聞かせの効果を説明したうえでカウンターにて本を配布する。
- ・対象本は3冊を予定しており、今後担当職員やブックスタートに関わっていたボランティアの方々とともに選定していく。

委員：現在予算折衝中だと思うが、どのような状況なのか。

事務局：財政サイドからは新規事業を行うのであれば、この事業を行ったときに、どれくらい利用者が増えていくのか、具体的な数値目標を定める必要があるのではないかという指摘を受けている。そこで今、数値目標を検討しているところである。

委員：朝日新聞に県立図書館の阿刀田館長のインタビューが出ており、紙の本自体が持つ力について語られており、「本の杜への招待状事業」にリンクする話しだと感じた。財政的には厳しいなかだとは思いますが、子どもに紙の本を持たせる大切さ、くり返し読めることの意味も大きいと思う。確かに図書館で本を借りることはできるが返さなくてはならず通り過ぎてしまうものであり、自分のところにとどまっている本に大きな価値があると思うので、素晴らしい事業だと感じる。

委員：対象人数はどれくらいか。

事務局：およそ270人くらいを考えている。

委員：手渡しをできなかった人には郵送するといったが、個人情報の管理などは大丈夫か。

事務局：健康増進課とも相談しながら、そうした危惧がないようにすすめていく。

委員：親の世代についてはスマホの利用が多く、ほとんどの情報をスマホで手に入れられてしまうことが利用の減っている原因だとは思いますが、そういう情報は流れていってしまうものであり、紙の本の大切さを伝えていくことが必要であり、図書館を利用してもらうきっかけをつくっていくことは意味があると思う。

委員：利用者の減少については菫崎図書館ができ、そちらに利用者がながれていることもあるのではないかと。明野や武川の方などでは、買い物のついでやバスの待ち時間などに利用しているという声も聞く。

事務局：病院が入っていたり、「にらちび」が入っていたり、設備的に充実しており、北杜市図書館への影響もあると思う。

部長：少子化については今年の成人が520人に対し、昨年の出生者は220人になっている。市としても総合戦略を作って、子育て支援住宅を作るなど少子化に対して対策を講じている。どの自治体でもさまざまな努力をし子どもの取り合いをしている状況である。図書館だけではなく、大型の古本屋やインターネットなどで必要なものは手軽に手に入れられる時代になってきていることも影響があるのではないか。

委員：今後の図書館のあり方全体を考えていく必要があると思うが、図書の貸出数だけでなく、全ての図書館の利用者数をカウントした利用人数を指標にしていく必要があるのではないか。

委員：自分の子どもたちを見ても、読み聞かせはとても大事だと思う。子どもには必ず1冊ぐらい何度も何度もくり返し読む本があり、そうした本の存在は子どもの成長にとって大きな財産である。そうしたきっかけをつくってあげる事業として大事な事業だと感じている。

委員：我が家には孫がいるが共稼ぎの家庭だと親が本を読んであげる時間がなく、おばあさんが読んであげているが本当に喜んで聞いている。図書館の利用者数をあげることも大切だが、親も本から離れている中で子どもに対して本に触れさせてあげることが一番大事だと思うし、そのために取り組んでもらいたい事業である。

会長：委員皆さんからこの事業についてよい事業だという意見をいただいた。是非この事業が成立するように頑張ってもらいたい。

*事務局より「金田一春彦記念図書館名誉館長設置事業」について説明

- ・昨年度より行っている名誉館長による「土曜ことば楽」については、昨年、今年と年8回行ってきたが、来年度はアーカイブデジタル化事業にも関わっていただくこともあるので、「土曜ことば楽」については年4回に回数を減らして開催をしていく。また昨年、今年と同じ内容を2回、金田一春彦記念図書館と他の図書館とで会場を代えて行ったが2回目は参加人数も少なかったなので、別の内容で4回行うこととしたい。

委員：それですすめてもらいたい。

2) 平成27年度図書館利用者懇談会について

*事務局より利用者懇談会についての説明

- ・図書館利用者から直接意見を聞き今後の図書館運営に活かしていくため利用者

懇談会を行っている。今年度については、3月12日に絵本作家で大月市立図書館の館長をされている仁科幸子さんをお呼びをし、第1部として講演会を行い、2部に利用者懇談会を行っていききたい。

- ・1部については、仁科館長に作家として作品に対する思いとともに図書館長として取り組んでいる内容についてお話しをしてもらい、2部は特にテーマを設けず自由に意見や要望を出していただく場としていききたい。

委員：去年は何人参加したか。

事務局：阿刀田館長の講演会は70人ほどの参加があり、利用者懇談会には、30人弱の方が参加された。

委員：チラシには仁科さんの絵本もいれてもらおうとPRになるのではないか。また大月で取り組んでいる内容も入れ込むと興味を持ってもらえるのではないか。

事務局：皆さんに興味を持ってもらえるようなチラシの作成に努力する。是非委員の皆さまにも当日参加していただきたい。

報告

1) ボランティア情報交換会について

- ・10月9日にボランティア情報交換会を開催した。これについては昨年ボランティア団体の代表の方に集まってお話しをいただき、ボランティアの連携を深めていきたいという話しをしたところ、ボランティア連絡会のような上部組織をつくるのではなく、まずはボランティア同士で情報を共有できる場をつくってもらいたいという意見があり、今年度開催をしたものである。
- ・内容は子ども向けの活動している団体、大人向けの朗読会をしている団体、その他の活動をしている団体の方向けの3回に分けて行った。
- ・ボランティアの研修について具体的な要望や改善点などの指摘があり、すぐに改善できる点についてはすでに対応をするなど内容のある話し合いとなった。
- ・県外の他の市でボランティアをされていた方が、他市での活動の状況なども話をしただき、参考になる意見も多かった。
- ・団体間で他の団体の勉強会への参加のお願いや、個人ボランティアをされていた方が新たな団体づくりに動き始めるなどボランティア間の横の連携をつくるものとなった。
- ・今後も定期的にこうした場を設けて、ボランティア間の連携を深めていきたい。

委員：ボランティアに対する対応が職員によって違うことがあると聞いている。

事務局：もちろんどの職員も同じ対応でなければならない。月1度行っている各図書館の責任者の集まりの場でボランティアに対する対応を確認したい。

委員：ボランティアなしで今後の図書館運営をしていくことができないことを考えれば、ボランティアが活動することに積極的な職員とどこか消極的な職員がいてはいけないと思うので、ボランティアの受け入れについて確認をしてもらいたい。

事務局：職員に徹底する。

委員：宅配サービスを広げるために各館で宅配ボランティアを募集しないのか。

事務局：現在、運営ボランティアとして募集しているなかに、宅配ボランティアの業務も入っており、今も募集をしている。運営ボランティアの中の一つの業務として宅配ボランティアが入っているようなかたちなので周知は進んでいないかもしれない。

委員：住んでいるところによって宅配サービスを受けられないというのは不公平になってしまうので、是非宅配ボランティアの募集に力をいれてもらいたい。宅配の際の車はどうしているのか。

事務局：ボランティアの方の自車を利用している。

委員：燃料費は支払っているのか。

事務局：年に一度少額ではあるが謝礼を支払っている。

委員：資料のなかにブックスタートの担当者が若い人が多いのでベテランを入れてもらいたいとあるがどういう意味か。

事務局：ブックスタートの担当になる職員が経験年数が短い人が多いが、もう少しベテランを入れてもらいたいという意見があった。

委員：今年度はボランティアの研修は行うのか

事務局：今、日時、内容を検討している。今年度中に行う。

2) 各図書館の近況報告について

*各図書館で行った事業、今後予定している事業について資料をもとに説明

委員：町内学校図書館との連携会議については、各町ごとで行っているのか。

事務局：旧町村単位で小学校と中学校の司書と公共図書館で定期的に情報交換を行いながら、さまざまな連携事業も進めている

3) その他

学校図書館司書：旧町村単位で学校図書館との連携会議を行っているが、学校の数によっても連携して行える事業も違ってくると思う。学校図書館としては、旧町村単位での連携会議だけでなく、学校図書館職員全員と公共図書館と

話し合いを出来る場も欲しいと思っている。

図書館システムの連携が進み、公共図書館の資料の利用も増えているが今後は物流の仕組みができればさらに便利になると思う。こうしたことを話し合える場所が必要ではないか。

事務局：これまでは各地域でさまざまな取り組みをすでに行っているところもあり、市全体での取組としていくとこれまで各地で行ってきた事業ができなくなる可能性もあるなかで各地域の色を活かしていくということで、旧町村単位での連携会議をもってきた。

ただし全体に係わる部分については各地での連携会議で解決はできないこともあるかと思うので、一度教育総務課とも相談し、学校図書館全体として公共との話し合いをする場をもつかどうか検討する。

以上